



俳諧
岩且巖暮

五入

5
4402



5
4402

蘇東坡詩
蘇東坡詩



門へ 5
號 4402
卷

文政六癸未年

歲旦

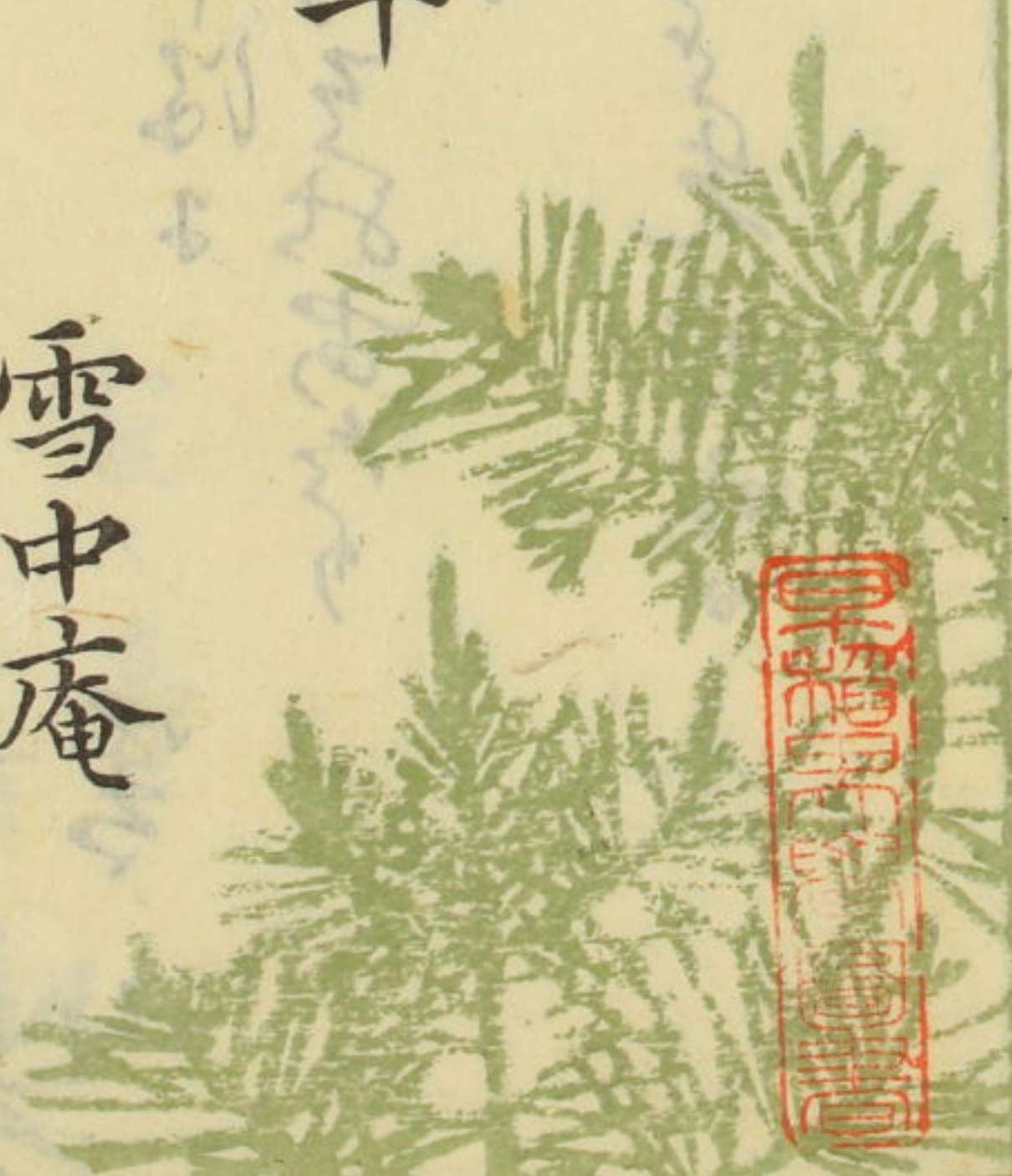
雪中庵

橋行也

對山

心一 竹 音也

先公 齋 里



昭和九年
九月二日
購末

春興

月お不流うーほみ

志あるそはあたし

誠言

春かりるをあらはせむ大晴日全

雪山

序一

清旦

寒亭

青牛

元也字本まきぬくろく

あーつ新州の神柳

對山

まつ松の調をたのむ

寒松



春色

山にそよ果ぬすむ清見酒 青牛

歳暮

新まゝのしんがねの舟走船 全

詔年

梅亭

天路

点初也昔のあめあし

春の空をよみよみ

安流の津は波は静か

草石

對山

春興

古意可憐
天路

分乘

家
全

辛盤

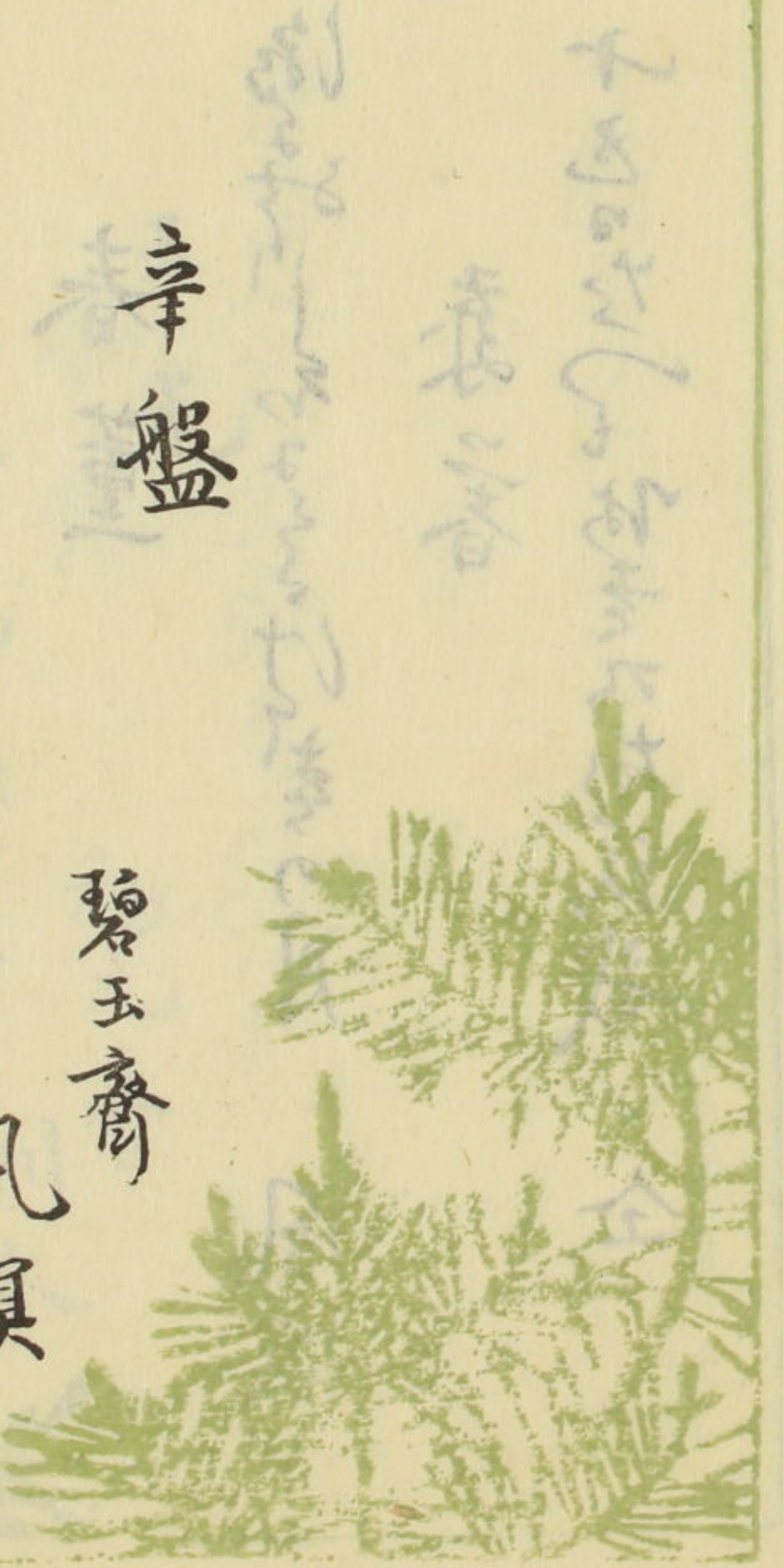
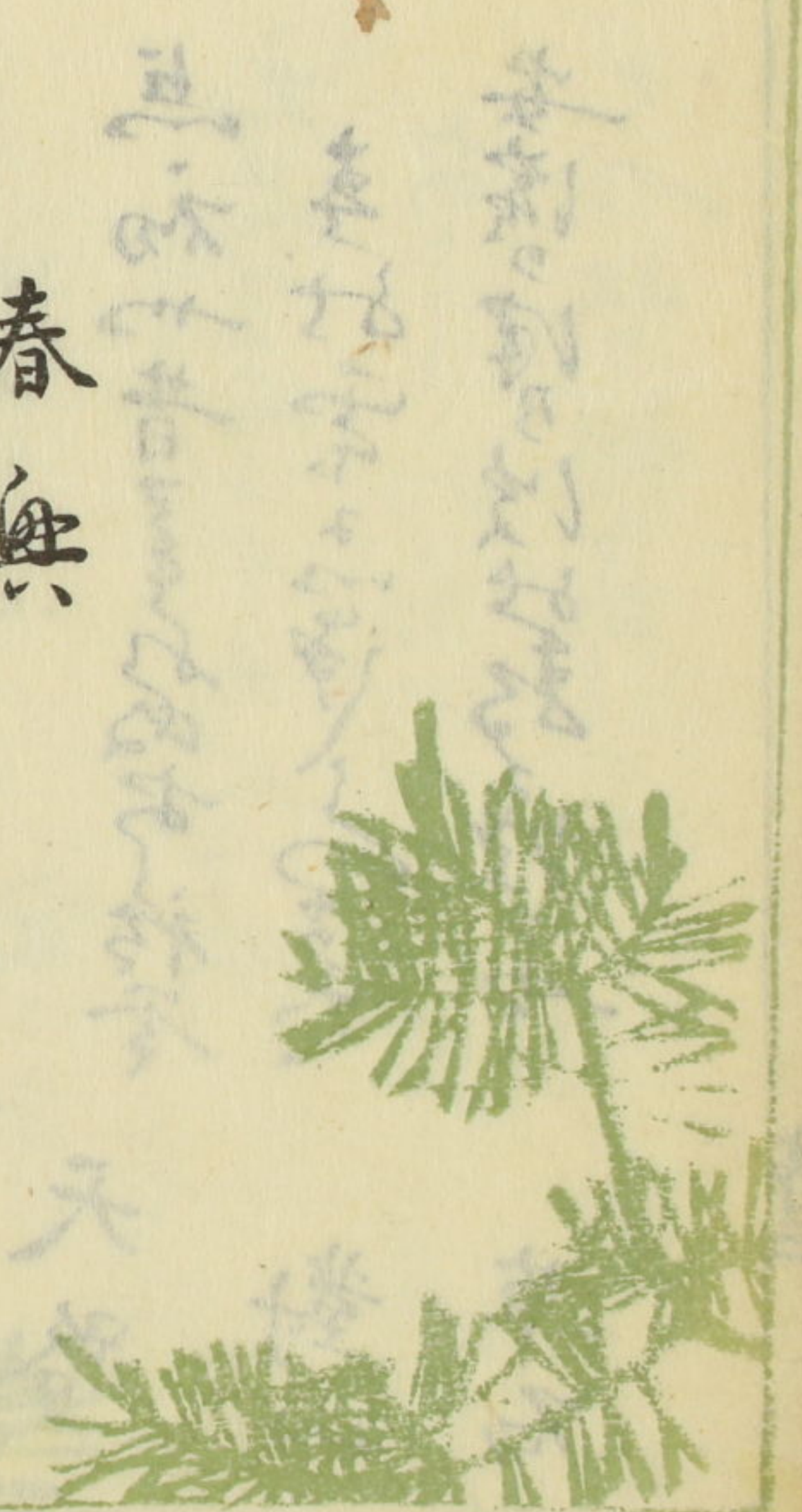
碧玉齋

風溟

空
對山

春
對山

若
鐵齋



春董

海よりあまきけりきの月 風溟

春香

十日たつとあき乃あはれ哉 全

玉光

初元亭

あまのつゆ瓶や風の松の亭 訓太

あまのつゆは山ささけ春 對山

侍係娘もあまのつゆ染とそ 夷門

春興

家言也浮産楠又後丁二き

訓六

終年

と海王家の終年とよもひの器

全

東君

素月堂

満府

篇案七木匠くう家姑喜

かみの実をかぬきく

對山

雲水の流し縮む川の美女子

北元

素原

はなはたの友と暮らしてはる

終年

東引は終はる下はる全

後有

佳氣

右橋館

橋象

菊葉の香はあやらの春

ならハ一ふき富の押鯨

對山

海苔はあやらの春百もて

吐風



春景

雪やうららかに中俣の海 橘象

晩景

雪道やまたたきしる餅の音 全



三始

映松館

梅も者柳も共よ夜の春

因率山

雪つと雨の音

對山

隣り雪の鴨の羽音

旦水

春董

洞鑿の洞を乞ふが如き 翠山

春末

勅くもたえよのしりては 全

和陽

風堂

木々新をくまきりて山家

東塘

むらさきも麦もは降る色

對山

花散るを天の川にゆもはら

里駱

孝堂

源三のむすし〜しむらゝむすし

東塘

流年

海の那きむすしけむすし

全

上日

幾石画

初八聲むすし起たる男哉

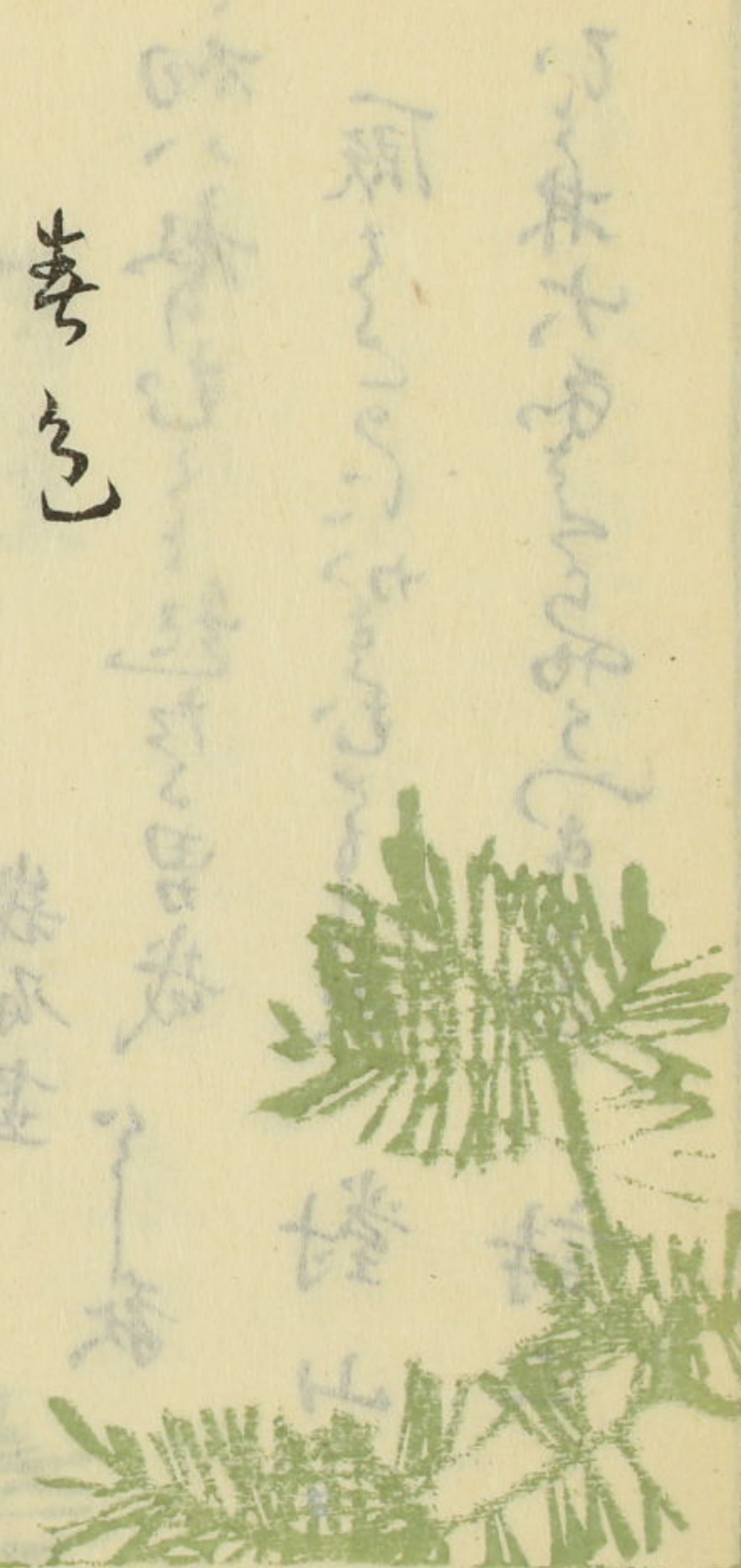
秋

一厥むすし〜かむすし〜大

對山

〜林大むすし〜むすし

詩三

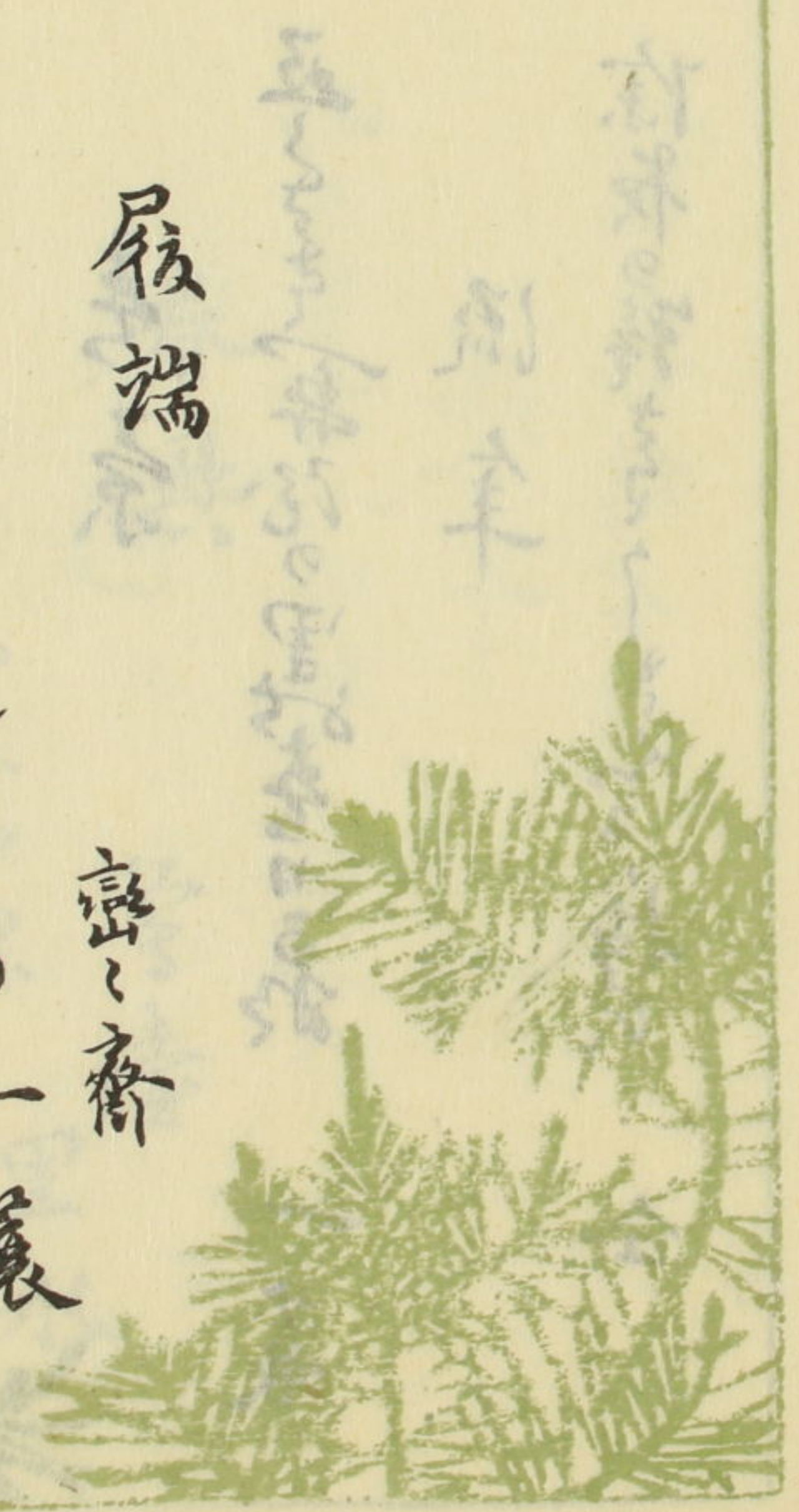


春色

春の風も水に流るる 心も

分春

春の風も水に流るる 心も 全



履端

齋

また春の風も水に流るる 心も 一義

対山

平樹

春景

五ノミヤノ井底の里は春の如く 一葉

流年

除夜の鐘ききしきんご持の 全

春興

春景

里水

晴たるとよるはあけの空

道く採りか木さかむ

まきらねやま圃のあけあり

對山

北元

春色

ゆるる宮や野梅の山花雪

里外

晩年

静ら大椿を筆子日向外

今

歳旦

太乙樓

不塞

蓮葉のつぼみはむすむす仕造

書院のつぼみはむすむす仕造

對山

雪のつぼみはむすむす仕造

里外

春景

京山七女松も春也喜ゆ

不寒

終年

百姓の生嶺を師を哉

全



歳旦歳暮并春真

任句坐到来
各詞書畧之

三ヶ日わくたひきつ

子過

遠石連

坡

雨をながきまきあそびあそび

縁であそびあそびわかさの縁余

元日のころろや沖乃すそを

全

山阿

月あつらふ花もあそびあそび

花の咲末と月けて懸年を

釜はよ一元日ら一とおもひ

全

女孝

すそあそび風也田産子

一

細道をまぎらひりついで

新しき波や春の初日を

きらきら光のまをりて

古唐をすまはれりけり

蒼陽 駿中之御連

元氣や川田のまをりて

田をまぎらひりついで

人衆のまをりついで

神のまをりついで

逸馬

鶴雅

子登

新道をまぎらひりついで

一歩も歩たかきえりて

元氣や川田のまをりて

三日月も一えりて

春の色をおもひ持た

三々日とまをりついで

兼隆、田のまをりついで

東晉徳もまをりついで

春鳩

以春

青我

辛盤

遠日坂連

包井わたらけに晴て天津空 吐鳳

とてつ終いふ風の来柳小

年まら古く人乃世の中や

山さど何てもあそふもれま 全 午遊

子れ戸也日こふてふの入りはる

かま一口や人のあそんをくも 全

松風の吹納てきつ日 全 杜公

月表も又なにきうあや梅小

山さど物掃除きす 全 可憐

きーなもあふは 全 鬼童

あけく 全

とても母もま 全

山降也ま 全 嵐侍

さつ 全

又す 全

元三

遠内野連

有林子尺 全 甘僊

松花とくもいもいえぬこ
 ちれくやまの暮さ田をく船全
 管をす流まある山取らま
 紙硯拵しておろわ大さるり
 何ともを飛く一さおはる二日全ハシタ
 波あれハ月石のうしきさり風
 ふ二川まこりもや大あ日
 初より取まきやちる身の垢全
 よく育つ松の忌木やまは月
 思文
 弄月

松花とくもいもいえぬこ
 ちれくやまの暮さ田をく船全
 管をす流まある山取らま
 紙硯拵しておろわ大さるり
 何ともを飛く一さおはる二日全ハシタ
 波あれハ月石のうしきさり風
 ふ二川まこりもや大あ日
 初より取まきやちる身の垢全
 よく育つ松の忌木やまは月
 思文
 弄月

海山とさう調へてかきかき
鄙ゆりもそのまじりたる_全
寂時ちやまをば月をば見る
雨すてよと入るりやの香

瀧寺

正朔

駿岩本連

泣達飛ちまをいひやすす窓
も風やまのまじりたる酒
よきまじりたる酒
まじりたる酒
中やくに始りあまじりての以

修来

巴調

うつくしき聲や初日は葉の積_全
川原に水の毛とて跡をぬ_全
若田轉乃日御もまじりたる_全
とちとまじりたる_全
叢のうめ咲きあけぬり見時_全
神代や硯のうみは松たつゆ_全
毛も香もまじりたる_全

雪川

豊見

義齋

園寺

開端

那風の物めく色 初日上総堂神玉 柳枝

白うめは咲かすもいふ家可那

けぞりや何よきいづつ海の色

水巾を言るる系わ明かたる全

まつめわ猫もひるあて来

雪う降もつまきまへ音つさめ

大風の吹くあまきりめはなる全少年

春よくきさうとくせぬつり梅

おほきほしはくさるるに言きき

、

、

、

、

、

、

、

、

、

家ちをて来よ入日わむの春全 薬阿

かきあついつこ樹よりぞ

清辰

駿加島連

まへくは海乃晴り初日のあ 来斗

ふまう春よ何やら清き社々那

すいさきや女子いゆるたうら物

元日や大勢すくくおの緒全 自間

まの宿のあまききる雨を社

のちきい 際さつりよそらの空

、

、

、

、

いづも形も清き水は波きき
三不秋の浪のほろあはす
隙もあの中は朱たう大いそ
いさききこたあた所き暖そ
茶むしるをいさきほりき
田の水乃ふさるわく除秋宿

春旦

阿波玄圃菴連

つ松や人七こころはりあり
葉灰乃落つて雨ちあはる

文輅

素兄

完冲

柳あふ家ささいさぬ衣配
うみささもたさハ夕に初馬
乞食の秋やまらるる續く心
やいれぬ落り初の蹄あり
松ハ木のけいのたさこころ
水ささる吹の音を飛まの鈴
中あさり外はさきき一
つ松よりろをさぬもろれ
さみある扁拾やうめさか

三千雄

李径

吳森

けとらふ後してはぬき
元日や甲く前七雀の影全 半臺
生魚の鮎ニをさくるらんト
衣とさけきんをう香のきき

季甫

七十乃きん返て

遠言尾連

海人のこころのさるされや 玉莫
先いさ梅をちうらにさの板
東姑山くらもおもしろ氣全 玉井
うめさる月や田あらまじり

来つげし牛も師走の歩り
うつあふく乃う後よ花乃春全 柳二
こころたにおきまなき所を

味陽

上総今富

明方や星の定もま那のける 其友
雪よまは波あき日なりすた川
春のぬい紙の中を流り全 一 笑
老たるとは定陰を白梅を
むきとめて所をさう 柳小全 柳風

おもしろき人未儀やと用迄

もききもふも母程いりぬよのを

磯貝のたもとふふよききのあ

変船を斗と末も取めり

野いくらききめたりきき隈

ききききのき申ありきき

とわりと日暮まーたり大崎

武本坊

春海

イセ山田

和樂

上日

意の一枝を友とておあるまを

遠志都呂連

十分お味明るおやまのき

閑里

一松をきりておあるまを

うめうやまうきききの

きききの風をききききの

をけきき伐り柳をききき

所館を月めききききき

こききききききききき

松風のききききききき

ききききききききき

ききききききききき

山女

可来

一可来

言梅

閑城

竹亭

文里

梅笑

表をり友よよ松のた
世のこよまをさあねひきり
夕暮のまをむしの
山表をり友やうそ夕さくら

鷗旦

遠尺附連

半はまけこの角七ありあ
氣をりぬくら一た大町の

手袴や衝きこに妹の
幸風やう観るる乃上

、 遊 旌 松 里 如 州 桂 眉 笠 雅

十二月もつと萱をうす三里

元日やふ一つうに枝の冬

うめうまうつと何ふあ戸くれ

三々々々仕まおくれ一妹の衣

元日やうまうつと何ふあ戸くれ

梅をり一梅をりうそ八香をむさふ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

元日やうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

うめうまうつと何ふあ戸くれ

、 桂 子

、 桃 半

、

、

、

、

、

さまくま世に降るや大世

佳氣

阿波吉盛親連

元日や松よ競子 松の音 新雲味

き近きなま限らぬまの如い

川の流るあきひくくとのれ

つらぬ川や初日の昇 解全

素月

春の小鳥枝より之く飛つ

市中、つきをちり余夜の特

おもしろきつ暖乃笑りお全

舌洗

柳原よりおんのつきまめ

写子つけるまもれ時き川

さうさうーい元日の人ころ全

松聲

陽をや踏つけたる春のま

松くらふ想木をつんてりて

草大根きも時めく富の春全

如竹

松ふものをゆるーはおくもの磯

あさあさあまのま影いづく時き如日

雪くりにあま梅乃二三全

梅徑村

春さし物もよこしは家のまら全
木の
まの湯は入かみれぬもきりれ

春回

駿河厨文龍菴連

幹花もすくう今ねおき守
、 芝山
まともをきこもよ阿ま
、 易得
赤株の不性つるわそれも全
、
りやんさくらひより
、
言もつも墓の中にも乃を全
、 木二
えりりやまらこくちやく

喜わえ向あおむら糸乃き全
、 景

み梅はすめられる藤藤ト
、
るぬすままはいたくたこそ
、
え日わあうあふもの松のこ全
、 麦走

さきあふうめむらうむふこの山
、
度い世の中は陣の除衣乃満
、
衣よきこらぬをこそ世のなる全
、 昇山

おるふも梅とさうる日ま
、
と一まのらめ山も形一

様いきの賊もさへんあつた全
 きねのぬ田舎も一かこ一敷
 きの戸やまのまのつも雨の後全
 飛こよるのまひもなきわら
 除夜の柳賦もあつたあつた
 福もらぬ風もまはぬあつた全
 海いをかろく春夜よりの布
 月夜のカーもあつたやつら全
 ほとんどもいつかあつたいち

月雄
 退少
 竹公
 暁山

位なきハ梅はらやまの月 全既破改
 改組 駭根方世中庵連
 ちねのまこと乃秋まきつにりる
 初らば竹麻やまいついあつた全
 松うさのまねもどやまきの青
 うまのまの先もむりりあつた全ハ
 海いの中ほのつらめあつた
 さいいつつ一斗乃口後い 全今泉
 如梁

石布
 自
 飛旦

音なきうらまきき一火のともやわ
たるおあ田は入まてをなうありう
如圭

曙色

遠溪松兄弟菴連

元日わき裾七舞ころるの籠
竹坡

来ぬぬ来乃ありて雪一
来圃

元日の風わくけ籠のかくき
来圃

おくはまきよあてやの雪吹く
可道

おはぬぬ先まきえつて毛乃ま
可道

灯のともはふもむいろはの
可道

まききのゆえをおつた乃懐
歸齋

もる風や酔りおき田を是
歸齋

やうもゆを流つか後のあ
歸齋

油しきまのたましく吹りたる
玄圃

まの風きいつる人はさつり
玄圃

月日はおひれてまのうらま
玄圃

おなるるうすしりまのま
清美

ちまきい家友まきおこ
清美

と一板まのまのまのま
清美

元日を海に暮るかきりりり 全サカセ 鬼舟

雪よふらら雪も日ハたり

雪はふらら雪をりり雪の春

湖の雪きいれりる乃雪 全 百梅

雪のゆりあうりるの小 全 大賀

雪よ冥かおもて起る 全七十四 雪塙

新正

肥前唐津連

雪のゆりあうりるの小 全 大賀

雪よ冥かおもて起る 全七十四 雪塙

對律

海をまじりり 船のきと灯影

と糸やうの風の吹くきりり 全 完停

吹竹の風やとまいりり 全

元日やめる 柳の人 全 未曉

おろろ月 雪の中を 全

雪をかや 柳のきりり 全 未曉

海に乃 雪のきりり 全 未曉

船のゆり 雪の中を 全

白紙は 雪のきりり 全

未曉

詩もむしの暮を遠を遠のれ全

一 嘯

きーなるわめをちれるぬの松

の川わたり木を流す夕日影

いまをせしむる自激路わめのをる全

夢をぬく人てけり春の風

おもしうあおらぬわあま川

あつと疎のまのふらやまのま全

かた川のあーたは流をまらる

身の雪梅も枝も降るは

子 交

吳 春

まぬまはゆらき人どう全

寤 秀

うけむのわのちれさうあはたり

山棲しうあえのあころ

移世十冊てぬい隣のる全

啓 風

ふらわをぬくころ乃汗

もろしきわもろしきある揚乃あ

初空わちうたぬいぬいせの海全

賀 之

きよのあすきう日永ぬ

りやーやうしあは持の脛

子付ら先人の世をてその場合
 夢もわねさのそねいさうちや
 すすきよんくの葉の形
 詩たふの昔おとす桂の全
 うめさる花の吹くさきを降全
 採てさき世草の中乃刺全女
 おさくわき里山神のこえふる全
 下もえやるけておく庭の石全
 元日のゆる夜をおさあたき全

半秋
 逸草
 霞色
 世草
 起蟻
 草朝
 千之け

妻おねふたつあきさる喜おさる
 ちるを結見もいさる月屋雀
 身移わきし心時さき全
 けりおねは似る一沙路
 あくは祈禱正規初東風ハ吉向全
 時きと形さきわくのうちも用を全

五羊
 眉白

蒼陽

駿吉原一如菴連

言乃きぬをきおねハナ松の内
 しまも七海とあまの雨

晋鳴

等好も大崎足の火影り如
 ありし孫針まわさるる
 魚女布乞つれていませらるる
 湯もどろたえまらるる
 雨風の陣まも末子来りりり
 福喜も子も只やちりりり
 小川ありしあきももあきりり
 とけ家もたれおちまらるる
 久喜の海のむらりりりり

全
 全
 全
 全
 全
 全
 全

巴尺
 荷溪
 梅音
 ト一志

ともあれいとも又まむかしの月
 坊もたきこよのおちまらるる
 初雪つてらるる
 日あけりや柳のまむるる
 大は陰るる
 家もたれまらるる
 くらくも田もたれまらるる
 屋一重隈いさるる
 ことなけり日のなれらるる

全
 全
 全
 全
 全
 全
 全
 全

眉山
 碧齋
 女
 柳音

身裾のふこぎとさる花のしる 全 茶静

志のふた雨の降りしるを野

ふる中をさし木つふかきお舟小

藪伐ておろあくる一松の屯 全 もが味

疎ふまの油のしるなま始海 全 悟風

たる風つあつらさるるまえより

沖火のさなきもまほし一表

つみたつた恵かまかりに宿の大 全 松風男 松田

月をまこぎもさるおつきさめ 全 梅哉

伝向いさるるにふさやまの雨

赤ら先よのけらぬ煉り

一聖節

上孫末更津畔之番連

うめとせやうも志のしる 全 一富

帆をらまらしておろせ静養者 全 南悠

うきさくわめお採もちむさい

ふさのやまもさるるも七日

初日のおろる通ふこなきりり 全 雪元

うきさくわめお採もちむさい

十一

松崎のまつりさきりやの雪

まらあやあきとくも神さち全

鞠子

柳うらやほとのいさる日あし

嫩草もいれぬもたよど全山

あゆわおろそくあしぬ松のうけ全坂元

萬子

うめさ日乃まつんで細金ふたこの家

あやうらまおん乃外をす拂全身山

ふれさるに家均あや初日のあ

蘆舟

うめさくや柳田まぬ乃書たて

まきまつりやさぬあけさる俵物

まののけめ真かまもの松と竹全箱石取

其若

はる風や十日の雨乃あひさる

十かま一不たらぬと市

船さる乃松子粒ふれ毛のさる全米吉取

青芝

いど連なむか回音やまあねる

懸籠て葉空まよる師き山

住吉の松うけたれ外を全め

一川

いさまて採るのむたぬあひ日

更始

東都梅亭下連

高し柳乃枝もて 祓小籜若小一洲改 對吾

こゝろ結い方さして 女の雨衣氣

美多乃きまきまあつたき 乃竹

まつりき 祓もねや 祓もあし 唐秋

き 祓もあしや 祓酒祓

元日やいさく 暑もあき 一甲

と 祓もあしや 祓のきさく

祓性やとまき かくらぬ 楳 吾友

すくも木もむき 枝そり 祓 祓

浮家り系と井くら ちつこま 妻河

あまのやぬあや 祓まの 祓か 祓

手祓や 祓おく ちさく 祓 羨魚

みけこい 十郎 言はまき 祓

鳳曆

伊豫全治碓門連

春はもくた ちまき 祓の 祓 顯雄

やちよ ちまき 祓の 祓 祓

ちまき ちまき 祓の 祓 龜連

たし船のまゝのくさの柳舟
 浪の華乃波のうししゆきか
 元日の内中くさく山のくさ
 くさ一覽の木は木あふふ二月氣
 ずる七日始入時おまゆあきし
 元日お田をこきお水をけて
 志々々乃具赤赤や鳴うま
 けりやいれをたし葉たし
 華の家いふささきす初日氣
 楓 連 葛 人 文 俊

春らーき子のいろも種たし
 とわくくさいふ乃こさくさの氣
 多のかさくお春らーき田舎ん忍性男
 とも風や輪乃女ささく夕田つら
 子お産乃吹ーつさくお追儼の秋
 山系、おさくつあつと初日乃坐素相男
 古竹いもささくさのあさくさ
 とさく日をささくおまゆあきし
 野人の限もなさくさ乃ささく
 雨 鶴 兔 雄

蝶よりききあつたむる舞のれ
けりまふむきもきんたきし
元日や人も田の存もさかた
晴天のふ彩看板やまの風
四等乃まふ、峠やとー乃雲

素桐

蒼天

東都吉原産連

系檣しく松のまけや初日影
もるも牡丹乃芽もかそし
むーろ帆や帆やとーの船ハハ

左鼻

え不ーとそ梅さすうめつ汀影
写子えまきぬ風やまの月
竹目やあまつ香は梅まつま
喜梅子勅とやうこ水の月
丘みま水を深さるふの形
うめさくや竹の尖も水乃音
あ梅子風もたきううめは梅
小娘のころも梅やうめの花
流井や柳まけー桐柄板

一子
如山
杏路
喜樂
炎賀
智苦
東江
字里
秋江

在つらむし一ろ海風やうめりて
 田井よ水の中うき如月夜より
 梅まかく山田歩りや二日杖
 つとよとつきのふ先や春の月
 己う葉神やふとむく風のつとふ
 春月やさううすうあきぬ
 うきうわ力きふむ宮角カ
 とそよなき風野一つ危のき
 よそよよよや風並りして梅さる

猿加
 尾白
 巨苓
 深泉
 修晃
 如仙
 一回
 賢阿

大鷲の風 吹りて 追儼の叔

似稱非稱六十九載
和曼批集十卷十年

松村乃 巖 言 けらめ 可 轉

元朝 伊勢津阿倍陸連

甘き夢よ 世界にけり 花乃 ける 雁 路

終よ やさこ 十けり 言ふ あり 楚山 雀 叟

ちよ けり 毛の 誦を 二日 月 雁 叟

よのけ 旗島の 波乃 する 雁 山

日 けり けり けり けり 雁 山

小利口をさつけなふまむす
竹下流の書を師まらう
たるやうになつてふよ
たるやうになつてふよ
世に知れぬこともなれぬ
元日なうまらう風を
明あつて一際くら
大どやたにまらう
元日や次をさする流の

和合

可柳

雲花

向ききぬ松のまらう
ト野就田まらう衣まらう

風光

東都神門連

在古

喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう
喜はつてまらう

可耕

初勢やおよしき 松の葉 全素

一里東てきもさなさと暮のふに

照るハ人カをららぬありて市

百丈や大木こそもの作を終り

ついでにむすぶまはるありて大和僧

けしきもさつげたりやまの風各

元日やいづなるらぬありて山

あつめやあつめ不精り月夜は

海吹風のききし大いそり

、 柳 鳩 陽 氏 全 素

元日やきよとついであらはる

昇りて戦気ききあつてと蛙

文をねむりききさるれやきぬ草

初吉やいそ家のききり波をよみ

無つゝいよきき、草花は流るけ

山中十吉まふとつとて用定

まつゝ流る水田のりり在るや

まゝめ乃子との歌しとさつりり

家畜のまゝわち江もいそるや

、 野 童 景 画 青 峨

湖の春の平きうもつる
 木やまの日はさきうもるの山
 されぬ山本きよりの水
 松舟やまをるは代り初り新
 ちるれや月もぬ日もうめは
 ちるくの貴とりの大路は
 橘の香もつる初深也
 青柳や梓の皮なる二日月
 雨風はなまぬ家や古きう

萱上
 祇孝
 竹几

青柳や月もぬ日の春は来
 ぬ〜〜〜せつやうも風のみ二
 松が
 東都碧玉案下連
 波の鼓もかきくらきくや初り新
 が、え、い、音も残るて神うめは
 日星あいて来もまこと大なり
 翁よりもちや起り老の春
 うめうまゆら衣も清けし
 所中のくまは清きりの水

得交
 湖南
 機勢

千石もつと 船乗りん 御の 野
とよのちん 八つらうて 又もや 春の月
とよのちん 上り 海もも 水の上
春の月 竹のうらふ ころろ 水
戸 鴨のいさふ ぬきり たる 水 雨
とよのちん 春の月 水の上 水
橋のうらふ 水の上 水の上 水
上り 春の月 水の上 水の上 水
街道のいさふ ぬきり たる 水 雨

守静

竹塙

顧目

元々やおまき なるぬき 水
我々つく 春の月 水の上 水
春の月 水の上 水の上 水
海の上 水の上 水の上 水
川の上 水の上 水の上 水
春の月 水の上 水の上 水

嵐山

半笠

山

物うりのおまの喜の春の歌
星さるや大百姓乃音さる
完舟

春錦

河波

これ伝け江戸一まいのもの
米園

江戸いろ一喜一まいよめ乃さく

さきまのや江戸はあ日の喜まき

あつらゝるや喜まき山はさる
可大

ふまあまふ友たきくさまのさ

あけも棧の日もあまのり

木は多や耕者時ふはるも
一行

そなたいてふめさ先のさるさむ

まおやおまきまアお表さる

二回乃勢おいて舞や初さ
酉水

さるさる和や流火のをあ

彩霞

東都

初春は小口をおむ
共洲

待ててまあや除夜乃さる

さるさる川さる人やおさる月
共山

清らかなるをさきぬおひの
鳥山

ふらふらとさきぬおひの
山

雪の市かきしる人かき
山

一りきもつかり里かきさり
永暉

入江のあまらつりりさる月
山

もはる日乃あるやまらつりり
山

山さとりやま未さるのさきぬ
雪蓬

柔大根の似てさきぬの枝かき
山

静のまはつりりさる
白羽

春雨やむらさきぬ百姓家
、

市道やおのりあまらつりり
、

和清

春のまはつりりさる格のさき
一齋

かきわけあまらつりりさる
、

初春や山さつりりさる
、

四五と雨はかきぬさきぬ
、

高き守人のさきぬ師さきぬ
、

雪あまらつりりさるの月表小
前甫

駿後枝

全右賢

たいしをすくまおろさるの風
東一ゆき新秋子もあつ雪の川 三上糸 且松
雨の日ハおけもななる時をい

青帝

駿三粒

鶴里

さるおちをかきぬりハ帆けん
志高き梅くら萩のゆるは金さ
まのうぬ海を月こるよあけに 全 のつこ
つねやつらなく吹雪お風 全六キツ 雪二
くらから都ちりしくめの電

舟船や子を育ちかゝる今 高川ほ 和元
日本礼は女や一宮あつ松の屯
たを待たらん陸子もまを
不二ハふ一おとちのり 全大川 雪丸
まの山衣うちひー木もあらん
松さもおつめを奏りぎの布
おとろや都なうる 上井谷中 東壽
以はよろこむ時を子履る船

朝陽

後百景後連
新七十四景

晴
松

ふしの根も雪のちるも初

降雪も早もあまつしむりかま

子制

元能やおなきくおむ日の伝説

あゝ魚や不によららてまわき

あき風のゆきをまらうをらか

以成

初六の雪もきやうむひり

あゝ雪のゆきをまらうをらか

秀江

あゝ雪のゆきをまらうをらか

秀江

雪をまらうをらか

莫淳

雪をまらうをらか

迎春

東都雪後連

雨たりおきなをたれ江への雪

波江

あゝ雪のゆきをまらうをらか

元日やとうとうと舞う松もくら

吼山

あゝ雪のゆきをまらうをらか

探りやうとうとうと舞う松もくら

元々人のこころのむさくら
さきよらや波まきうてみ鏡
又さよふ花のよめ葉やるたより
取らるや笑うちつふふ
志らうと喜をたしむ雨の私
東一の舟たさく聖を待た家
身神やちらふもむかハ男の子
うらむきの餌をさる極やちらふ

律回

波 曉
波 調
思 玄
吼 月

山も七節の昇る言ひ松
けしもたまさかになら一日乳
元日や只おうとまきるをり
心元のもりされりう免のむ
大よりふりまきり阿まや
明らうたる山もいとゆる
ふるふかき話なむわめむ
お鷹お似たりあるものや一の用
おさハさるるわき出ちおま

下総千代連

東 漢
総 山
三 友
袖 甫

羨ましくは羨かもしかき命うら

神の機をむけや右、まぐ

初虫やたうきふるとめおあよふ

うらひまや宮くらまうる村のあ

磐石もまけと赤やと

中なるまつ日あゆむや替の煙

森はたや梅の影を起さ

妙いよと日守まに

日くは鏡をさや浦のたる

三

三省

川 楓

柳 風

全本山
月浦舎

日小向魚の糸おきや赤き乳

赤もろ子赤うとあてて用迄

かつくた著とわらさ

赤時や赤をまうるう

人数のまうてこゆるよ

あはれきまのまうて

雨やんて柳のうら月表

子所ホ、こちもち

と一めさやあ日ま

四

春 眉

鳥 月

雨 桶

明ちろくく昇東のふる柳うね
うねのまきまきいーさよ大さきり

春榮

武金川袖浦連

元日やなみおく明て海と山
ちる風や日暮れおちる溪の村
人の上もこゆるやうじやの波
いそぎや風あるまきまきまき
ふらふられまきまきまきまき
山さきの新きまきまきまき

文貫

栢栖

末賀

袖、まき、細のちらやまき月
川の日お極先まきまきの風
降こまき一たおまきの月
山百のまきまきまきまき
鳥磯や浪あらまきまきまき
まきまきまきまきまきまき
うねまきまき天龍まきまき
んふら柳まきまきまきまき
うつまきまき山の本まきまき

雪責

雪洪

尤逸

菅雅

雨晴や雲のしほりハハのせ

全

桃李

いづもさきかたしとわきりま

全

信

枯芝も山根のこもよたるの月

全

一更人の寝やうたーとーの梅

玉光

八丈島連

我物

つるさーとさる木ハる初日の

障日とくつらおきぬをけし

けとー何かなきをー小晴

天晴の空とおまよ初る寸

序遊

陸家おてよ夏のたきやさるの雨

山の森もろれおるな 大さる

舟おるも川はさきとーニヶ日

お葉もく赤つちこおすを花は

松の葉の色をさめつや衣とけり

初鈴やむしー向ふ玉あり

乃とー梅守まに柳ヶ形

山とー巾着くまも 除表の用

まつ夏や海まももいそ乃松

廿六

得路

東耕

東吳

あまのつゆは乃中も極小
田乃月を月乃洗ふかよのそ
七浦はあまのあしこまのそ
入海は一里のそ
木のまにやのそ
伊豆大
尺四寸

初辰

東都友言菴連

あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小

元日はあまのつゆは乃中も極小
さいくとたあまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
浦人のあまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小
あまのつゆは乃中も極小

持映

富船

知的

雪のあはれをくらむむつづか
砂粒

雨二日ひびく霧の柳のれ
、

きよのやまのあはれをくらむ
、

万女のあはれをくらむ
、

たつ、今もあはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

詔年 東都半樂苑連

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

あはれをくらむ
、

たふけあふまをくくはきり
十人より補あり玉のちる
其由
其時をみゆいごう掃のこき

新曆

東都万街連

芝浦や初日よにぬ車は
雪詠

染つてこころをむかひ
杉其

風やんて春の光
東奴

ものすはあなき浦や春の月

之日やくまはあも田はあも

いつかき人のきつる春乃雨
五粒

あついで降るよりさうり帯

あついで降るよりさうり帯

あついで降るよりさうり帯

あついで降るよりさうり帯

春香

駿大宮連

浦の戸や波の初日をたてぬる
葉洲

あついで降るよりさうり帯

あついで降るよりさうり帯

是るるをきく山をむらさき
降きもさしやあまのまをさし
雪のたやわつらうとて風の
松影はしほきしつらうの
あふんししねきしりたての
桂木屋のなまをさしやねきり
月夜らうらぬむさぎの白雲
舟をさしやけししらき人ら

六九

煙二

金曾

帆里

木は枝をさし向あふ初の日
ししや木のをめり春の風俗
田はあまの早あし除ね
さし打のさしきくおく
春のややまをさしつけ
たふしとめをさしし
元日けしや外へ
あふさしし
安人ら骨をさしや

全アッ山

全岩伐

蘭丈

幹齋

梅亭

雪峯

たしづねを替り乃ゆりやきの妻 全一系口 雪母

不足なきわし月守替りあは

白梅まじりつけられ 全 三千丸

傷たふ葉のきぬき 全 艾雪

きのゆき 全 越山

二交めうらまら 全 陰風

いさう 全 金糸

元日 全 薄山

酒の静なき物 全

まのちり小押の小松 全 ふきみ

丸女 全

山川のき 全

芳春

東都警龜山連

は傳 全 一賞

磯 全

あ 全

明 全 東明

月 全

高人の業未だあふよりのまゝ
 初たるはかりきくたやま峠々形
 きーなまふこの裾ゆら葉を吹
 とり灯まるる葉中よあまぐれ
 年隈の松をこぼる葉をよめ
 めきながら舟をまわすの雨
 次へぬるもよめ餅のむらぬ
 閑 醉
 春江

湯畑の里に新築したれり

人殺の道なまらあ

曾孫あまら

手紙もとくく老乃真

石籠

七十一

海客もいと

のりもいと

かの子

ちんちん

豊年

歳年もえり

梅 ちんちん
半三島路里

佛印

法衣

八十島歌川

今野のな

赤梅の葉茂むころは、秋末長く
 夜ふくまぬころは、秋末長く
 七娘のまゝしむるまゝに、何れに
 いはれやうとて、あやう
 月守

はなれ水

田入今

あめり

後今取
 七十五歳
 如美

新室を待

しるまを待

門松也

室すまの

江しるま

正月

一物
半室也

詔陽

相川田原連

初冬よりあきよりうめを

貫水

うめこのうさやふか

歌詠

元日やをくもるはこなき

松全歌

遊外

おめをのまいおすいそやうめのを

をけきく新木をくくや大なる

初冬や三百日ハあはれおむ

懐山

ふとそらにふる風あつ喜は山

め乃かきうなうそけりうと一の市

元日や次へのききしれの物ききし 全 雪可

杵おりの杖一葉も来るこころ 全

綿弓を里まきしや 全 後後

元日や浦の波風一つやうに 全

日よき涼川舟や飛こころ 全

きし揮や明方きよき山のうね 全川村きし 童山

くもれあふさきうや月の山あり 全

ありえのひときつまりよき山の 全 依山

うそいきや椽の本地いゝ宮女家 全

摩多も喜めか 全 月表 全 仙步

海多れ狗毛まうら 全 仙步

かゝ船へ火籠投こむ柳 全 巴山

ま替のきうゆる 全 巴山

白梅乃咲を月表のけ 全山小 孝雪

初吉や海のこころ 全 孝雪

うめさ日たさき 全 孝雪

山さくや 全 孝雪

元日や 全 東溪

黄やみむもらうらさしや大さる

東君

東都月下菴連

身ちろくすよきつひ山く次

山等のあきよ田ありたるの風

空一忘あきぬすに挿入り

水如思におもられぬも如はるのさ

いず那や喜のあ晴 父をくさ

水ハ末をつく役もあつやりの翁

雲固の具もすしハきき松島

湖

万変

桑郷

うめをえり事な 使し霞の臺

まを飛しつゝあきま喜びて

なれあきあきけが柳の春

又もつらさきに入り舞や雀

毎のあきやたにめりすあの子

のいそよ沖けよあ帆たさし

あき乃あきしあきさきあき

大風や干石船も帆こらへ

あき花のあきしあきしあき

春嵐

稿波

青雲

麦賀

かきよけふふ二つふもえぬ物
 まら〜あ〜た乃喜まつねぬ
 ふ〜のいふ物こもつ日のか
 きにいふ物もふ魚のいふ人
 藤〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ
 初をたふも入た〜き〜の空
伝松本
 藤〜のた〜た〜た〜た〜た〜た
 ー〜の下のま〜あ〜と〜細
 ー〜のま〜中なる松のつゆ
 賤尾

白鶴

雪市

賤尾

暖味

暖味をふよりぬるあるー外
 暖味ふよりぬるハ〜えぬ大〜その
 ちつきりと雀も鳴やはきぬも
 人のめま〜えぬ〜ちをそ糸柳
 ち〜掃やめつらうかをたえつけか
 物る〜又えをえるの條のきー
 ち〜〜〜〜〜〜〜〜〜初日外
 けあるや〜おまよや大崎日
 不積
 守里
 破風

おきよとあひもきぬ山家東都 麦鈔

らんたあそとちら向ても梅柳

柳家の柳を雪如山又一

嘆ふあそあそと由き如乃雪

春風やうりくしゆの後の先

雨やまきつなぐさつ八きか

芦原の風きたりて初日の如

乙女のさるさるるは降る小

ふるさつわきか一又けて梅さき

東都

麦鈔

き昇

可群

柳霞

庫山

明もす神けし夜の起り

先いよりゆるかあやあの花

僧やあ月のあつあつあつれ

夕暮のかあさるわらにを葉の如

一あ如初巻らうもあそを如妻

まつちうきさる今こそ大なる

上日

下総古河

雪洗橋

千丈

おきよとあひもきぬ山家

雪洗橋

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

七文

丁三郎

全千文男

杉管

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

涉砂

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

女子湯

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

高山

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

五十二

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

秋等

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

おれ中田の...
おれ中田の...
おれ中田の...

全千文男

秋等

曙色

東都

俊山

初雪やわらふふらふゆ人寂

きつてあふすもあつらふあはれを

終りや入口ききき、涙ぐ物や

こもるおとこ、津乃初日お水

けりや懐きつめるかんな層

繁昌お祈存の聲や松うさぎ

旭や田乃中お水お空

とちてあふ懐らまやうお水

かきあめやうあまのゆきまのこ

ききやうんくく日やひさお上

なまお水やうくく笑ふ新の雪

りくお水やけもなき場

さかきお水お場くの軒のさめ

師ましき表ふ八人のお水なき

鶉且

駿河原連

史山

お水お水一父母の笑顔子初日の正

くくお水お水くくお水お水

柳啓

石席

、

、

一相

、

、

、

、

、

、

、

、

、

世の事人おんうとあきりりりり 全度裁 賢川

あつらひきこもふれもあゆき

よひをあきあきあき 一帯ノ孔

あきあきあきあき ふこつこい 全佳王改 大可

あきあきあきあき あきあきあき

あきあきあきあき あきあきあき

あきあきあきあき あきあきあき 酒

あきあきあきあき あきあきあき 山

あきあきあきあき あきあきあき 多心

あきあきあきあき あきあきあき はつ

あきあきあきあき あきあきあき 山

あきあきあきあき あきあきあき

改旭 駿江瓦連

あきあきあきあき あきあきあき 完我

あきあきあきあき あきあきあき 完有

あきあきあきあき あきあきあき 王

あきあきあきあき あきあきあき 王

万牛 全松敦改
 蕉 全
 素山 全
 舍元 全
 完川 全
 松月 全
 魚白 全
 雪齋 全
 志人 全

元日 全
 いえ 全
 子た 全
 みる 全
 千代 全
 雪齋 全
 水 全
 乙 全
 蝶 全
 齋 全
 水 全



とくもこれ本は万の月と云々

正朝

駿由比連

為つまきに二代連うたむらさ

愚門

争いけいふは仙古よまをさくら

た著やけいふは正朝人叢

茅雪

田の勢はさきさきなる浦田丸

と一城や赤地のまをさきさき

田子起ささきさきなる石川原

さよふやいささきさきなるのあり

民古

橘

さき風や海さきさきなる帝の吹

其聲

つ松と来さきさき三穂のこはる

芋路

世のやまはさきさきなるのあり

蒼陽

駿府時雨窓連

目下下さきさき海さき初日可形

巴明

木よまよひさきさきなるのあり

初勢や世の戸かきさきなるのあり

月集

あふ人の友振舞やさきさきなる

さかてまらやさきさきなるのあり

鐘山

よきやうに日のれきある時きふ
は降やまぬの雪本のの節いとしり
はきこし川の末きふを柔くれ
もよこしはきほいひめよ初き守
くしききめきつふふことしらのち
初きや山の松風あきれきさ
末廣のなき廣きつたのり乾
山際ハ免もつむう七まうう葉
風鈴をかてつきかめたる陰の

石 鳩
以 治
湖 月
以 明
春 耕
羊 田

雨竹や茅のうきをきけい
大鳥の葉やをきけい 峰の松
は降のふききふしや山の雲葉
き雨きすまふなぬ 桐うね
よよきききききききききき
きききききききききききき
おるきききききききききき
きききききききききききき
市町やきききききききききき

如 舟
楊 舟
石 湖
柳 音

いよきお力なきり門お松全 月扇

ききお洛や箱く起きお

とを種一きいおもりの餅の音

表いとお根の生けりつのおち全

玉お子愛を打きりたるお

美おあしきしきまつおら全

こつらりおおのふらるおあ全

月おま十日おこもるお全

萩、降るるのまやわきの物

月扇

月備

指月

魚文

とをいおいおお流流よこるお全

おあやとりおけりめ乃自おあ

降らいつ雨は月も木お全

降きし人おあぬをヤお全

まへのおをめおる曲のまお全

有明乃を引きす神らめお

清辰

東都宮の丘連

初まやあ合おお三お子

不ろくときおあえしお被ら

梁雅

和戎

系路

山松

月夜中首をかいたるうめ花を十五 億山
 ずり舞の音も喜ひなきより 江誓
 燦は降り伐りぬー丸山の竹
 一となく先初なるの野山系 杉枝
 糸のかぬつてもてあつた柳吹 杉
 ごとく木つゝかゝるわふ二乃とえぬとて
 初深空海いさゝかて、廣きより 杉五
 月夜中首をかいたるうめ花とあつ

三始

東都大川連

大雪お脊をのりてあつ 初日うねり露岳
 又つともこの余雪を撫ー木か
 初勢やうまき返りー不二乃裾 女ちうね
 月夜中首をかいたるうめ花なりー色
 さつたらひるの寐さ糸もかてわき
 かつ髪を髪をかきこるやーら高 等席
 おもひなき伐つてもさか柳うね
 花活の中やまもた、一表

新おやろの日のちかき木この先 ヨソカ 雨聲

夕ぐれのしんくもわかろの風

街のちかろもひびく木 中ハニ

先ゆくや寛かたたるの山 湯深 雲

元日や老のころもまき 鏡 溪雨

家ふは津守の浦よひくちり

ちかろなきをさくらすは相

吹竹の音もかけむのたる 開裏

天子をちり振きぬあまの人 夜

季甫

東都街街連

きら〜と〜と〜乃色の田畑 路生

〜は〜あ〜合のよき 夜

あ〜玉乃たる〜はち〜ぬ日本 夜

葉ふきのめ〜い〜い〜 夜

葉大根乃喜〜も喜を待色 夜

元日を元日おに 吐

ち〜枝末ついき 暁

〜〜〜もか〜〜〜よ〜 夜

前およこころいさるるまゝに事一
 雲く大河をさるるいづる那
 ぞこの春をふりけり撫養をば
 ほろふくおれい一暮もはさなほ
 じよふたふたあつちふたあつちのさ
 ちぢいことけつしんもふたあつちの
 明る春物を先たることふ
 けきら一たおあつちのいづる
 せ一明る色の候はる春まか
 十洲
 輝山
 安良

つ先の小鴨さんも七きり一はる

新正

遠相良連

海山おひさきおれあつちか
 春をかいたましくまやまの風
 障もおれまけり除夜のあつち
 ころあつちのうすまを吸うつを
 つらくと柳のあつち物日か
 雲のやちうくやいそお波
 百所のまきまに揺るやまの雨
 蘭英
 千春
 言ゆ
 波る元

檜つりぬ田示ふあきりの船合 雪人
 飯檜の上は風をうやふきか合 柏之
 春高乃傳ふつるる神山氣合 取檻
 へしきやねのぬるる鳩の海合 枝月
 番きけり持つととよんか合 以風
 泉風や雲おしきる旅のいき合 蓬丘
 根の根まいつもはるるあゆき合 湖風
 つねやおぬ— 祠のいく午交合 五周
 かきりと来るも春あはれ合

ちく—と海をうらぬあひふ二合 後子
 なま〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜のま
 けし—と海をうらぬあひふ二合 葛史
 えりや海の上は山むら合
 採道—と海をうらぬあひふ二合
 けし—と海をうらぬあひふ二合
 言鶴、おとさぬら〜〜〜〜〜
 つねおや春風ら〜〜〜〜〜
 四六のいさ〜〜〜〜〜

五十二

春景

遠水川三井園連

清風庵

露橋

あつたふらふらとさくらさくら

たふらふらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

磯村や日永の川細いさないと

いつの日もさくらさくら

時人をさくらさくら

障もさくらさくら

人おさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

梅雪ふらふらとさくらさくら

さくらさくらとさくらさくら

障もさくらさくら

梁三

柔月

菜山

一葉

文水

由戸

楚岸

月の生七もやまきの野中氣 如相
 うめさくやまきつきー海乃上 相梅
 ふらん来る船は月守ようん船 旭山
 まもきめつーもけよまけ色 花晴
 三の子乃えつーつーもりの水 晒之
 昆布賣のしらひきりやまけ風 如木
 ちる風や賦つてまきぬ船の中 女花友
 了ふくの二つはあをたよりあや 橘き母 永誓
 いまぬやまけやうぬるぬこち 助叟

春のさく花はさきあけい船
 雨一和を志て探れなり
 明てんやえ日はなる後まに
 たにさく子傳はまきやまのさ
 来たいて田舎をまねよーい
 律回 上孫納言歌連
 いまぬや河き流を都ま
 山麓集々ちよあさりま月
 かさつる春やまきりー昔やり

人の心を海もふりあらしけ 全 池柳

雪の初音はさむき、峠の形 全

ふらふら風吹かふる十府の菰 全 騎

人の心は海もふりあらしけ 全

引波や海の中をくぐるの山 全 雁字

日如夜、ふらふら雪はさむき 全 李蹊

暮色や柳の影はさむき 全

ふらふらやうやう笑話の山 全 邦芽

青柳や雪はさむき 全 車

青柳や風の心は、夜ふ 全 日 全 方舟

つらふらやうやう笑話の山 全 史崔

四十まで杖をふるおもしろ月 全

ふらふらやうやう笑話の山 全 巨山

糸のやうにゆるゆる流やおほる月 全

つらふらやうやう笑話の山 全 完固

七つや孝の一字を二つ 全 司表

小糸女の夢はさむき 全

大糸流の心はさむき 全

六十一

河原や夕暮のさくらも如やあ
つふふと夕暮のさくらなく桂
舟柳の魂をつふふと
木くぬめ如勢いもすい新雲
ふるや一日やすいふさ如丈
春もやふふと如く咲桂か
春風やふふと如く咲桂の先
す掃やふふと如く咲桂の先
日さくらも昇つて如く咲桂の先

李系
樊圃
濠音
但音
河音
芥橋
濠泊
景秋

春のけりやあけをさくら
溪流の都ふる日やきいのみ
春柳や此は旅の人さる
春のめいふ乃はさるき
雲より父日のさるき
春柳の影をさるき
父さる日さるき
春さる月さるき
春柳や水も平ら日さる

里松
宗系
其心
志山

たのゆき刺繍乃梅乃抄全女歌笑

やはらくに日の昇るこつやあき

旭又向てあつめさむ山家全乳全氖毛

さくらさきやるまはあつさくらさ

脊戸山はたうーつひきおま全中全菱路

三松乃さくらさきもさくらさ

かく陸月日集たりとさうたり全鳥林

影の所お末さうりおさき

きつ子やるまお上よかき全糸

風やんさくらさくらさくらさ柳

きつ子や袖乃袖おさき全周山

きつ子やしらさくらさくらさ

さくらさくらさくらさくらさ全枝牛

子巖や嵩桑のゆり全四子全完歩

元三

東都官庫連

久伊さくら森さくらさくら初全松飲

茅倉おさくらさくらさくらさ

武佐おさくらさくらさくらさ

雪も来りつりりニ冬、夜 六音

盆もきりやぬきや、時、

万也と團、色を地ま、那、 有月

百とふ、一村、一、如、分、限、の、か、

色、とり、よ、配、り、お、し、ら、ぬ、衣、の、敷、

赤、運、の、ひ、ら、け、た、も、や、た、ら、し、も、

雪、来、り、つ、り、り、い、ろ、く、を、し、ら、ぬ、の、こ、

ん、も、ち、や、木、の、ま、き、の、日、さ、し、

餅、を、も、や、狐、の、定、も、を、ぬ、り、ま、

新甫

と、あ、ま、の、浦、賀、へ、い、ろ、く、を、し、ら、ぬ、

外、の、名、も、つ、ら、い、ろ、く、を、し、ら、ぬ、

屠、殺、の、お、し、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、元嗣改、 丁、知

う、ろ、く、を、し、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

若、の、高、ま、か、つ、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

万、也、や、清、の、ま、か、つ、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

ま、ん、の、ま、か、つ、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

外、を、た、は、れ、ま、か、つ、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

ま、の、ま、か、つ、ら、ぬ、を、し、ら、ぬ、

捨女

松佳

さ—時の一雨とめき 柳の形
 ふききとぬか何やど—の松の
 元の日地をふききき 静乃静
 青柳のあなたるり 四つま智
 じゆき何もきき 智いさつ
 めきたきり日本一よ ちんちん
 柳又の葉はきき 飛んちん
 松林こ—ハきき 支隣
 ニつとハきき 戸口さ— 智のき
 素算

田—かてハ 履まそろハ ぬきあろ形
 ちんちんよろちんおいて 通本ハ
 くらハハ 楮鳴りよ 初ハ 聲
 山まいたいらな 芝—ヤまの—うぬ
 静ぬ 静やきき 隣回士
 都合よき—ハ ちんちん ちんちん
 ちんちんのきき ちんちん 木よ ちんちん
 ちんちん—きき ちんちん 日けり
 ちんちん—ある ちんちん 初馬
 豪山

珪波

草堂

豪山

湯あうり美入よあふ梅乃風
春臨吉似珠の薫やうん

春董

東都南港連

山よりさしむもあしおのれお

十朋

新し農具をあやめの花

もあしきわむし屏風のたひん

またさうり二日七回しをさし

雪洞亭

雅因

さきうとぬきたる木よきし

りやあはれとあもし一は假治はき

春朝や松陰しをけうめはつ

御風

淡萩は露もいろはん衣と八

朝帳やきあふんきるまき垣

汀氣

あはれをさつりるやきは月

餅つきや柿のもくくの氣

松風をふこは福野やつらきり

龜來

さきさし乃細きをけりわさるのち

小田は日やとくまのまのちき

ふさつとつかさねとあやむらき

女
美湯

雲の山あらしを歩けりき
 いろ糸結ま元も雪飾る可形
 元日やあまあらしき 起こる
 大空をいつきあやもはる
 未か来と地はきいよをいれ
 和書やけさよりなき波の上
 葡萄へ山をさそはる日や
 けふけりやと木の山つき
 手紙のちも書者よはゆる
 玉山
 和風
 銀西

いそりしやとらむいとも梅柳
 是もどけ用色もされや雪とれ
 雪のめはくはぬらきよ 録乃梅
 むら雨よぬきとらなふ柳か
 脊をかきしては七除表静已
 雪よ山りある日もまつてな
 影起る二度なきもはれおま
 扱てまゝ山もくさる日くれ
 上下のなつてもなきらすの風
 魚文
 遊荷
 東花

海にさきよ初日の光り心鴨之れ

窪堂

あまぐら乃庄口はたの月表か

日ハ常時すにらるる大なる

妻とつふもつ喜もあま古もけ

きることあゆむあま乃祝か

大海の香もつらとわかきり松

舟もつら新ものさよとあ船

松乃香ハたうてもあこと三ヶ日

りやわらわらさるる木の香き

二十

吾友 如文 友古

元日わおち色なき葉大根

鐘秀

雪消こもるよとあつら

初まやこく不のうつは呼いそ

其真

りこやまゆなかり朱依

魯山

空々海つゆさるるまを今

其の流星もさたはる也

波もさるい層のあは浦のあ

いふことあをさるる人こと

松ヶ枝のさきあきさるる松の林

旭塘

青帝

東都

曉鴉

牛もも森ハつり那らそお虫
しらわはるりめお芽家の日乃たす
文りやまはく枝あやのやくもら
雪隠やこやのあつこ初日とす
をやまを睡月もも雨の末
志賀山とよておさうと一お味
田おあや月ゆるるとにまもゆる
川おハかきおおまき柳ハ

石玄

律何

くく喚ぬえの舟坊のうめお花

文外

葉の毛やまらへおも旋るろ

系路

雨の目いなをさらをの柳お

金光

山百おやうらあけをまお色

袖月

兄ちうらのとく四と目を柳乃柳

公吉

雪深きおし船おまきの月お水

是道

とく荒いまおまらえぬこくお小

暖起

東都

いそおをまらもりやま浦お

志考

柳次

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

一舟の人もあつた

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

素泉

古黒えりたるうなるる 初日也 三ノ月十七 完 潮
知也たつとく合をききうとく木舟

彩霞

三ノ月

ちつとくいさや懐もあけをきき 湖 齋

拾ふもれりごとくちちりか 全トヒ 月 齋

日たしむもききく 積者もくし 全トヒ 月 齋

いさやふもいさきけいさるいろ

りごとく刻木よくらき 畫也先 佐赤岩 華 洲

元日やうんとくたる 大も如と 佐赤岩 華 洲

山は木やうとくま 全岩村田 雪 吾

家とくをききく 全岩村田 雪 吾

世もあふりの馬 際やう 全岩村田 雪 吾

ちとよと月日 仙臺者所 夜 吾

史也よと似 仙臺者所 夜 吾

山鏡や喜のい 仙臺者所 夜 吾

古とよみ海 甲陽才監 梅 吾

連歌元 甲陽才監 梅 吾

引明の 甲陽才監 梅 吾

開端

東都

奚山

春もいよ一畝鶯のくきき
かゝ先て去る人おふれぬ
衣のいろ解る人もは
野も鳴く梅もなるま
江の流る水もさし
おちりてふよはまた
まをりてあつたけ
さしは去るけあや

やよみ

桂月

木記

山けり初日おほき

茅書

衣きりて花子風

南岨

初鶯や柳影の影

や有又なるは

立雅

田のぬき志

太節

雪雨をきく船

上日

残雪や風のさしつゝおらさす 齊 壽岳

月と風のあひなまきしむ松の花

不さるらむとらふやうやうにまは

小松やわたいらふ傳へたるの言 おらさ 雲龍

おらさるるは月あるはなすれ ふし千福 楚山岸

糸なる大井川なるまぬまは 楚山岸 楚山岸

おらさるるは月あるはなすれ 楚山岸 楚山岸

我後乃さく所きいせは乃さ 楚山岸 泗水

春色

日ちしむるまゝ七枝なり老の春 惠松

めははれはさるるはなすれ 妙観 妙観

ほまはし一仕るるはなすれ 後 後

やまふきの根はさるるはなすれ 彰工 幸款

春無

さゆ申のあひし上へわらひし 列 列山

春乃雪の華の中はさるるは 管 管河

まゝしめのをさるるはなすれ 素 素周

か花は子葉を骨子いふは花を
名指の風を花つく折に
かこも芽をきよまははるかに
未度子細をきつる花を
日溜りや春を花をさる甲
雪が花をきつる花を
神龍子一息うめは白い
花を八心の花をきつる
鶴のこゝろ葉つひをきつる

風谷
宗泉
其玉
里扇
柳江
成貨
菜山
翠羽
蒸嶺

めれたりと花をきつる花を
去りて花をきつる花を

兎山
月朵

全

初花と花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を
花をきつる花を

孤月
月堂
兎明
支雪
東之
柳端

垣のこゝし梅の咲くは
素はまふの裏のこゝし

景山
白甫

全

鶴ははるやま入ら身を借らん
杉山は赤くをかくす
寺の壘ハ燕の巣よりか
陽あやまの管くらりよとき
清きを花のたこふ
萩黄くき雨す人

園備
咫丈
甫天
古久
玉杖
半兮

火を焚くみれハも雨を
全

適甫

つらまや知きなき子に
心やとくさふまこころ
清らぬか拂ふあはれ

東溟
貞秀
陽李

他邦之部

曲を途の末にかくれり
うらまを本はるに
雪さけの末乃よあ

月楼
芦曉
栢堂

人こころ住きあぬよき日野田
 抱こまはつけ細糸一孝の風
 ちのちをふ乃れたる田麦の那
 京へむとくは吹なりたる如風
 つ先、機糸不きや孝はうせ
 木は芽ふく野晴戸や良家も
 毛うこけらふ舟のさなる音如月
 柳乃くやなきふるまな味ユウ
 梅さけり系をふむのなた如月

五羊
 完停
 三徑
 閑里
 雁洲
 雀叟
 芟山
 易得
 木二

陽岸や舞入るるまきくさけ
 多社にねとまじあはれなき孝如月
 おもふも嘆きふれ家さる
 舟る如流乃つきりもるの雪
 ち雨とふふとに降一日う如
 ともかともなきれ雪のち白髪
 取よあたえおもちるの月
 何と如く孝気ついでる如月

曉山
 且松
 玉英
 芋路
 ふさみ
 園李
 高山
 史山

全

千文
 自足
 完潮
 完步
 茶石
 太素
 蘭英
 甘僊
 未藝

三花
 五周
 仙菓
 酉水

全

禎之
 露喬
 梨三
 菜山

いづ罪は消しそなきはよらふ三
新よむ石川宮や夕らきみ
雪も菜ふらふささるるわや
那もあれはゆきもささるるわ
ふくの月もあはるるえんか
是もあはるる柳乃いろのうら
もは日乃葉もあはるるえん
神の宮はあはるる一層やまの
船もあはるる堤をけりもあはるる月

桂眉
葉河
完我
竹坡
素流
可道
未圃
一富
三川

いづる月もあはるるえん
まはるる月もあはるるえん
ちらへるる月もあはるるえん
燈のふもあはるるえん

華洲
東壽
東溪
一齋

いづる月もあはるるえん
まはるる月もあはるるえん
ちらへるる月もあはるるえん
燈のふもあはるるえん

反甫
丈雨
完壽
貫水

日をおむ東海を 十節をきみ
喜しくなる 望みの喜ぶきりてこそ
喜雨は傳へつゝ 七夏の灰
とことなる物のまゝいやはるは風
柳を背は月ある 喜しく社う那

全

舟をこゆる 月日は染まらば
籠ひきやう 八つさうりて見てまき
淡ぬき 一いさも喜は雨なま

うゝい喜はやまが なるん物のか
白鳥の復手の聲や 百々鳥
かゝるをきぬも なる山は月

全

うめは戸や 見しふふらも 香は白あ
波くえて 波のききまよ なるは山
音寂や 一たきれ 家や なるの月
ぬる雨や うゝいさ 喜しく 晴る 物

全

東溪

盤可

秋等

似風

可月

徂東

去留

尺布

祇山

雁路

梅嶷

石塢

以迄

湖月

素路

日たらしりし年をさるる砂梅が
車小いもちりりうめを
夜掃と初雪は来ぬ先
巴 月 鍾 山 叢

きーなるもかき底きる山の祭
陣変るものなるあけて桂うね
雪乃金くほくやまをけり
群 完 梁 眉 白
七つはら月七かてらめはを
木 羽
えふーとた人よれあまやか
湖 静

全

東都之部

る風やなめつんむふれは
露 岳
不三たりくゆやゆ色よふおるき
麦 雨
青柳やとほりきる月の隈
關 裏
まやゆーくもあたまにまゝえる
寒 兎
舞まは連りさるわさる時
顯 雄
ありとおもふふたり時を
雪 蓬
雪がきをもちりた時斗か
守 里
一こふの芭蕉だつよあやとハ
湖 風

春の浦船のあはれ波をうつる
たる風やはた中を渡るをめぐり
やうあや十日のちつき月乃船
引汐乃まきれもたをうたむ月

全

三日月や春の心をかき氣にさる
ふりや子流のまうるをさる枝
雨たきよ春の氣又の傍子小
浦、おのそや柳もまは中

十四

完味 嘯山 椿守 得変 是道 所濤 袖月 文河

雪や筏たななる 泉日 春
軒内、花のさるやまはる
うらみきや月乃藤アー小松山
梅を又よゆ咲ハ花も春よまはる

全

雨た社の音す春をわ帰石
吹きた幟あきらまはる川
松ぬや春籠り乃音の月
泉風や雲の外ハおはる

一泉 路生 輝山 安良 雅周 御風 歌月 波江

青柳は袖にぬれりしりり
その中へ家あり望まは四睡の國
下もえや春むしりる守墓乃つ
神宮又よ梅とつものもいふのり
春のうめやえとやきこもをい雨も
於縁ありはるるめをえんよち
嘗や麦らりくたる木は陰細
砂浜よまはるきもはえかき
まよなり遂にり月の夜一ふ

江 寺
系 旃
旃 江
如 文
鐘 秀
友 古
吾 友
其 眞
旭 塘

十日あつたはるに
二書三書のももやうななるこもあか
まはるきおきき一月はえうら
作るはとけりてとるゆらめうら
内川へ入て雨もふなきこれ
なを引世表のおもたし
紙入た細ぬれてありかある月

其 由
不 由
律 何
午 桂
完 尔
元 器
完 舟

全

雨風の一日おきや
志くく欠く喜や雪留の下
梅伸てそよふ春あき
うめきくや鐘子提し大
雪の静やわがしき伊勢

田村家やアの名残の月
優きを一文獅子や春乃
毎日如山形をいふ木

十剛
雪鴈
普山
杉露
秋兔
升古
松飲
槐市

山姥子手を揺らゆ
雪もよき麻さく山乃
名二と三人て妻を

孫つきり妻は鴨
志くく欠く喜や雪留
山もくく物活た
川海苔の形やある日

豪山
志考
粗文
得燕
石掌
随賀
石交

飛さうまふえていさるこまふら
甫山

全

さ阿栲ろ藁ハ柱一あづけおく
了輔

月九一十ふらめれまふら
雪武

葉草青といふまみまふら
山松

芝土おないまふらとまふら
芝逸

人形のふれぬ日なまふら
橋童

井七ふら果報過る梅の花
六旨

うまこく山さなるぬまふら
水直

折是の月の表わらめの花
永葉

たはの教ふらまふら梅の花
英父

大尾

喉しく新汲おふらまふら
夷門

おけおふら先まふら
饑齋

お一は火の灰もふらまふら
吐颯

りおふらふら一は時斗のけ合を
草石

建仁寺おけおふら
北元

庵乃おふら
平樹

花柑子なるかきまを情みり

旦水

山吹花清きもたに様如き

埋骨

以れ清味もたを向きし山吹

詩三

前日七何ぞ見たり道は喜

俳林物草隱居

海は深きもたを向きし山吹

松

次の日も何ぞ見たり道は喜

真門

山吹花清きもたに様如き

松

以れ清味もたを向きし山吹

松

前日七何ぞ見たり道は喜

松

嵐雪忌

十月十三日山當取越
三月十三日於駒込常檢寺

葵大居士櫻花會

三月定宿追西披露於品川末福寺

芭蕉翁喫茶會

四月八日於深川六間堀芭蕉庵

空華忌

四月十六日於雪中庵

吏登居士蓮華會

六月廿五日於雪中庵

空麻手忌

九月七日山當同三日取越於雪中庵

芭蕉忌

十月十二日於雪中庵

右具の各忌の対より出席有る

日野藩甲四拾七百三拾九

森虫

Handwritten Japanese calligraphy in black ink, including characters like 日野藩 and 森虫, with some red ink markings.

千
百
餘
年
之
流
藏